

# 研究所だより

第447号  
2022年 9月 5日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“夕焼け 小焼けで 日が暮れて 山のお寺の 鐘が鳴る  
おてつないで みなかえろう からすといっしょに かえりましょ”  
『夕焼け小焼け』 日本の童謡・唱歌 1923年(大正12年)



## ～実りの秋・2学期スタート～



今年の夏は6月28日に最も早い梅雨明け(気象庁速報値)となりましたが、7月中旬まで梅雨の戻りのようなぐずついた天気が続きました。8月には県内で35度以上の記録的な猛暑が続き「熱中症警戒アラート」が発表される日が16日もありました。

(9/1気象庁は速報値を見直し確定値を公表「四国地方梅雨明け：7/22」)

1日(木)には地震に備え県内一斉に「シェイクアウト(地震から身を守る行動)訓練」が実施されました。各校でも実施されたと思いますが、引き続き「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。

2学期が始まり、児童生徒の元気な顔、声が学校に戻ってきたことでしょう。猛暑、コロナ禍であっても、子どもたちは長期休業でなければできない貴重な体験をし、心身共に成長したと思います。

2学期は、陸上記録会、教育文化展や音楽祭など諸行事の多い学期です。まだまだコロナ禍で何かと制約を受ける状況が続きますが、行事を通して仲間づくりや地域の皆様と関わりを深めることができる学期でもあります。蓄積されたエネルギーをフルに生かし、地域と連携しながら実りの多い2学期であって欲しいと思います。

## ＝夏休み明けの学級づくり＝

コロナ禍のなか40日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子どもたちにとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取り組みを始めましょう。

### 【ルール・マナーの再確認】

みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身につけていたものも忘れていくことが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わるときや集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。学級の実態に応じて、みんなが学級で楽しく生活したり、活動できるように、ルールやマナーをいくつか決め、全員で守れるようにしましょう。

ルールやマナーを確立するために担任から強制的に守らせることは、子どもたちの反発を防ぐために避けた方がよいでしょう。ルールやマナーは、人と関わったり、集団生活で楽しく活動したりするために、人間が編み出した生活の知恵であることを十分理解させた上で、子どもたち自身で決めさせ、取り組むようにしたらどうでしょうか。

また、各係活動や委員会活動等の中で、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりをすることで、集団を高め合うことができます。特に行事が多い2学期は学級集団を高める絶好の機会です。行事で集団を高める。行事が集団を高める。学級担任の腕の見せ所です。

## ～「令和4年度 高知県学校総合支援事業」拠点校・足摺岬小学校の取組～

### ○第1回防災教育実践委員会の開催

7月25日(月)に大木 聖子准教授(慶應義塾大学 環境情報学部)を講師にお招きして、第1回防災教育実践委員会が開催されました。

本市では、昨年度まで5小学校・1中学校が「高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、南海トラフ地震に備えた防災教育の充実を図るため、市危機管理課をはじめ関係機関と連携しながら避難訓練の実施、防災教育に関する指導方法等の開発・普及等に取り組んできました。本年度からは文部科学省の「学校安全総合支援事業(学校安全推進体制の構築)」の趣旨を踏まえ、拠点校の足摺岬小学校の取組を通じて、各学校の学校安全の組織的取組等を促進し、モデル地域全体での学校安全推進体制を構築することを目的として取組を進めているところです。その取組の一環として7月25日(月)に大木 聖子准教授(慶應義塾大学 環境情報学部)を講師にお招きして、第1回防災教育実践委員会が開催されました。

はじめに学校安全総合支援事業について、県教育委員会事務局から説明がありました。続いて、学校安全総合支援事業にかかわる足摺岬小学校の取組について、岡田 隆也教頭(学校安全担当)から1学期終了時点までの取組(足摺岬小学校の概要・防災・取組等)と2学期以降の取組予定(全体の学習・各学級の学習、研究発表会)について説明がありました。

講演では、大木先生から第1部避難訓練について(1. 時代遅れの避難訓練、2. 現実的に何が起きるのか、3. より現実的な訓練の取組事例)と第2部防災教育について(1. 写真で危険探し、地震ショート訓練、2. けが人について考える授業)事例を交えながら話をいただきました。訓練の改善内容をマニュアルに反映すること(訓練の改善は学校の防災力の底上げに寄与する)、防災教育のカリキュラムマネジメント(児童生徒に何を身に付けさせたいのか → 児童生徒に何を学ばせるのか → それをどのように学ばせるのか)の作成・位置付け、「防災の教育」ではなく「防災を通じた教育」を推進していくこと、第三次学校安全推進計画の策定(幼児期、特別支援学校における安全教育の取組の好事例等の収集と情報発信)し、実践していくことなど事例を交えながら話いただきました。

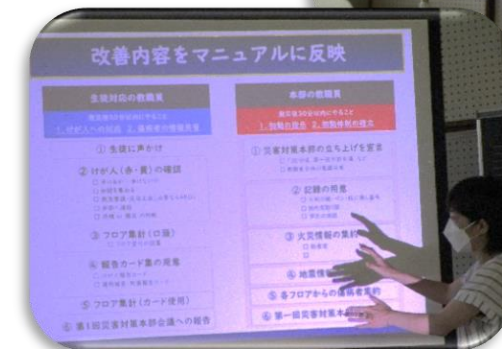
[研究発表：11月17日(木)予定]



「学校の取組」(岡田教頭)



大木先生の講話



## ☆第7 2次土佐清水市教育研究集会・一日教研開催☆

8月3日(水)に第7 2次土佐清水市教育研究集会・一日教研を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3密回避の観点から初めてオンラインによる全体会(開会行事・講演)を3会場(公民館・清水小・清水中)に分散して行いました。

開会行事では、岡崎 哲也教育長から本市における超過勤務の実態や部活動の地域移行などについての提起がありました。岡村 相良委員長からは、熱中症予防、コロナ禍における教育活動の在り方・方向性等について話していただきました。

オンラインによる講演では、名古屋大学大学院教育発達科学研究科 内田 良教授に「学校のリスクを見える化する～部活動改革から働き方改革まで～」と題して、長年の研究データを基に学校の実態(エアコンの設置状況や教育環境、管理下における部活動の災害、教員の働き方等)について話していただきました。

特に「子どものためにやった方がいい」から「子どものためにあきらめることも大事」、「教育は無限、しかし教員は有限(ダウンサイジングして質を高める)」、「子どものために」自分は楽しい、好きでやっている。しかし過労によるうつ、自死、死亡は人を選ばない。残業は感染する。エビデンスから超・長時間労働のリアルに迫る・公立小中学校教員における一週間あたりの学校内での勤務時間数(過労死ラインを超えている)、時間管理なき長時間労働の実態、部活動における教員の負担(教育課程外)、「制度設計なき長時間労働、制度設計なき部活動」など、今まさに現場で起きている様々な課題について、優しい口調で分かりやすく提起していただきました。



質問:「各自治体における働き方改革の実践例について」

回答:「自治体単位での働き方改革の取組について調べてみましたが、目覚ましい成果を上げている自治体をすぐに見つけることはできませんでした。やはりコンサルが入って学校単位で相応の成果を上げているというのが現状です」(8/5)

一日教研の部会研修では、猛暑をものともせず、講師招聘しての研修やフィールドワーク等、先生方のやる気と熱意が伝わる研修が行われました。下記に研修の様子を紹介します。



〔国語部会〕



〔社会科部会〕



〔算数数学部会〕



〔理科部会〕



〔外国語部会〕



〔情報教育部会〕



〔教育相談部会〕



〔養護部会〕



〔事務部会〕

○ “子どものために”ということや続けていることは多い。それに疑問を持つこともなく、当たり前と思っているのが学校です。今日は、我々の当たり前にメスを入れてくれた講演でした。“リソースに合わせてダウンサイズ”をしていくことが必要ということばが印象に残りました。教員の働き方改革は、なんとなく無理だろうという雰囲気が本校にもあります。でも思い切って変えていかなければいけないと思いました。教員の意識改革は、世間一般より難しいです。特に長い間教師として働いている人たちには、変えづらいです。でも倒れては困るので、アクションを起こしたいと思います。今日は貴重なお話をありがとうございました。

○ 今日の講演は、最初から最後までとても考えさせられました。「子どものために」ということで私たちは、無理をしていることがたくさんあると思います。先生がおっしゃる通り、教育は無限。しかし教員は有限です。教師も一人の人間で家庭、家族もあります。教師は魅力ある、やりがいのある仕事です。だから今こそ、限られた中で質を高めること、みんなが笑顔でいられる持続可能な教育、教育現場を考え、見直し、実行に移していかなければと思いました。有意義でした。ありがとうございました。

○ 日頃から勤務時間を意識し、業務を効率良くこなせるように優先順位をつけていきたいと思った。一人ひとりの業務改善の意識に加え、チームとして業務を分割して取り組めるような雰囲気を作る必要があると感じた。教育者として、業務を行っているが、現場においては学力向上がずっと目標として掲げられている。自分は学力向上よりも大切なものがあると考えている。本日の講話を聞いて、やはり第一に考えるべきは生徒の命を第一に考えた環境作りだと思った。それは身体的なことだけではなく、心理的にも安心できる環境作りが不可欠だと思った。

